

---

# とある銀色の

hearts666

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
とある銀色の

【コード】  
N4502M

【作者名】  
hearts666

【あらすじ】  
ある日万事屋と上条と禁書目録が出会った

## プロローグ 1 (前書き)

初投稿なのでアドバイス等ヨロシクお願いします。

## プロローグ 1

空にはカラスが飛び回っていた

地面には幾つもの死体があった

そんな血生臭い状況の中

一人の男がオレの前に立っていた

一人の男がオレに向けて行った

「そんな剣もついでりませんよ」

## 第一話 プロローグ 1

新八「……さん……銀さん起きてください……！」

銀時「……うるせーな」

新八「早く起きてください……！今日は依頼人と会う日でしょ……！朝ご飯できてますよ……！」

居間からは味噌汁の良いにおいがしてきた

銀時「黙れダメガネ。二日酔いで頭がイテェんだよ」

新八「誰がダメガネだア!!! いいから早く起きてください!!! ほら神楽ちゃんも!!!」

神楽「死ねダメガネ」

新八「なんか扱い酷くない!!!?」

玄関の方からピーンポーンとインターホンの音がした。

新八「依頼人来ちゃったじゃないですか!!!」

新八はそう言いながら玄関の方に向かっていった。

新八「ハイ今行きまァーす」

ここまでではいつもの日常でなんら変わりないと思ってた

いじまびせ.....

## プロローグ 1 (後書き)

このあと上条とかのとあるの人を出したいと思います。

## プロローグ 2 (前書き)

今回は書いててだんだん混乱してきました…

漆黒の不死鳥さんご感想ありがとうございました

頑張って書いて行きたいと思います!!



上条「だから幻想殺しが……って前にも説明しただろ!!」

御坂「うるさい!!うるさい!!いいから勝負しろ!!!!」

そのとき御坂の携帯が鳴り出した

御坂「ちよつとストップ!!」

上条「えっ!?!」

上条と御坂がその場に立ち止まった

御坂が携帯をポケットから取り出し通話相手と話していた

上条（よし!今のうちに……）

と思った瞬間上条の電話が鳴った

上条「ったく誰だよこんな時に……」

おもむろに携帯の画面見ると

上条「インデックス!? やつと携帯の使い方を覚えたのか!」

上条は少し安堵感を覚えながら電話に出た

上条「もしもし?」

インデックス「とうま……かな?」

上条「そーだけど……どうしたんだいきなり電話してきて??もしかして隠しておいたプリンを食べちまったのか!?!?」

インデックス「うつ………ゴメン。………じゃなくて!?!」

上条「なんだよ??」

インデックス「いいから今すぐ家に帰ってきて!!それから説明するから!?!」

ただならぬ雰囲気インデックスが言ってきた

上条「わ…わかった」

上条は電話をきり急いで帰ろうとした時

御坂「待ってって………言ってるんだゴラー!?!?!」

また青白い電撃が何本も飛んできた

それを右手で消した上条は

上条「マジで危ねーから!?!」

御坂「どーせ効かないんでしょ!?!」

上条は大きなため息をしたあと

上条「わかった、わかったから今度勝負してやるから……だからもう

帰って良い??」

御坂は照れながら

御坂「…ほっ本当に今度しょ…勝負するのよねッ!?!?………なら  
良いわよ!?!」

上条「じゃ!?!」

上条はその場で回れ右をして大急ぎで帰って行った

そんな後ろ姿を見ながら

御坂（今度会う約束しちゃった!?!）

そんなことを思いながらニタニタしていた

## プロローグ 2 (後書き)

次の話で何とか銀魂ととあるを合体させたいと思います

あとオリキャラも……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4502m/>

---

とある銀色の

2010年10月8日23時04分発行